

区民を元気に コロナ乗り越え

日本共産党台東区議団が 2022年度予算の修正案

日本共産党台東区議団は2022年度予算案への修正案を提案しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止、くらし・営業・福祉の支援、希望と潤い…の3つの分野に24億9千万円、一般会計の2.3%を修正し区民を元気にします。



服部区長(右から2人目)に予算要望書を提出する共産党区議団(昨年12月22日。左から鈴木のぼる・伊藤のぶ子・あきま洋区議)。山口銀次郎区議は2月、会派を離れました。

一般会計予算の2.3%組み替え

希望と潤いの台東区へ **2.1 億円**

- 被爆地への中学生派遣を長崎と広島両市に
- 文化・芸術関係者、劇場・舞台などの活動支援
- 再エネの市民電力の育成、省エネ支援
- 動物愛護の予算増額

くらしと営業、福祉の支援 **14.9 億円**

- 介護と障害福祉の人材確保予算を2.5倍
- ふれあい入浴券枚数を倍にし、長寿祝金を復活
- 高齢者の聞こえ改善機器支援をよくする調査
- 台東区で子育てしたくなる支援策
 - ・ 出産応援手当を10万円、小学校入学・中学校卒業時に10万円の「教育・未来支援金」
 - ・ オンライン授業等のICT環境の充実
 - ・ 学校給食の食材費を区が負担し給食費無償化
- 就学前の均等割り国民健康保険料を無料に
- 産業と観光分野での骨太方針練り上げ
- 地域経済を多業種でもりあげる事業を支援
- コロナ融資の借換期間と回数の延長、返済が始まるまでの条件変更への信用保証料補助

新型コロナ感染症の拡大を防ぐ **7.8 億円**

- コロナ感染症対策本部の強化
 - ・ 専門家を招き総合的で強力な体制にし、区内の感染情勢を把握し科学的に対応。
- 保健所の常勤保健師の増員
- 検査・医療・療養体制の強化
- 在宅・通所系の介護・福祉従事者への定期PCR検査と事業が続けられる事業所支援
- 学校・園での感染拡大を防ぐ
 - ・ 教職員や関係者への定期的PCR検査を行い、陽性子どもが1人でも出たら速やかに同じクラスの子ども全員に検査を行いすぐに対応。
- 区民無料PCR検査の体制整備



財源は 空前の基金512億円の4.8%を使います。

財政が大変なのは？と思われる人もいらっしゃると思います。もちろん区の財政には限りがありますし、国や都の不公正な税制改悪により将来不安も否定できません。

しかし台東区の収入は極めて順調で、史上最大512億円(今年度末見込み・一般会計のみ)の基金をため込んでいます。(右グラフ)

地方自治体の仕事は「住民の福祉の増進が基本」(地方自治法)です。消費税増税・物価高、コロナ禍で健康や暮らしがかつてなく大変な区民のために、いまこそ潤沢な基金を使うべきです。



区議団 ニュース

日本共産党台東区議団

〒110-8615 東京都台東区東上野4丁目5番6号
 電話:03-5246-1484 FAX:03-5246-1487

発行:日本共産党台東区議団
 2022年3月発行

ホームページ
[共産党 台東](#)

コロナから
区民まもれ

区長と直談判11回

日本共産党台東区議団

検体採取センター、発熱外来を先駆け提案

区民の声で区の対策動かす

日本共産党台東区議団は新型コロナウイルス感染症が日本に入った直後の2020年1月28日、ウイルス検体の採取・検査体制整備の提案を行って以降、区長、教育長に11回にわたり要望書を提出し、直接申し入れを繰り返してきました。検体採取センターの設置、発熱外来の整備やパルスオキシメーターの貸与はじめ自宅療養者の支援策などに結実しています。第6波でも無症状者へのPCR検査に消極的、医療アクセスや健康観察に対応できない区の姿勢を正しています。



要望書を提出し区長(左)と話し合う区議団(右側3人)



年末年始の医療・生活相談にとりくむ伊藤のぶ子区議(真ん中)

医療・介護・福祉の声 最前線から届けて

伊藤 のぶ子 区議会議員

コロナで仕事や家を失った人への支援活動に懸命にとりくむ伊藤区議。路上生活で感染している人の相談にもものってきました。

いつでもだれでも無料で受けられるPCR検査、全エッセンシャルワーカーへの定期検査を一貫して要求。ようやく動き始めました。国保や介護保険料の連続値上げに反対し、国保料の子どもの均等割軽減を繰り返し主張し、来年度から就学前5割軽減が実現します。

プラごみ資源回収へ CO₂削減に大きく貢献

あきま 洋 区議会議員

燃えるゴミと一緒に回収し、焼却しているプラスチックごみを分別し全量資源回収をと、繰り返し取り上げてきた、あきま区議。区は来年度からモデル事業を開始します。

プラごみ分別回収で、東京ドーム58個分のスギの人工林が1年間に吸収するCO₂を削減できます。

「台東区は狭いが再エネ資源開発は可能」と、気候危機打開へ、区民参加の運動を提唱しています。



江戸川区の市民電力によるソーラー発電を視察するあきま区議



あかじ坂の景観を守れ、と鈴木 のぼる区議

オンライン授業拡充、 谷中の景観守れと全力

鈴木 のぼる 区議会議員

鈴木区議は第1回定例会で、急拡大する子どもの感染を防ぐため、オンライン授業の拡充、持病があり登校できない児童の出席扱いを求めました。教育長はICT指導員を充実すると答えました。

谷中・朝倉彫塑館隣の6階建てマンション、あかじ坂の石垣取り壊しの住宅建設には住民の声を届けるため全力。景観をまもるルールの強化、地区計画での高さ制限範囲を広げるよう求めています。

伝法院通り 立退き訴訟



区道を不法占拠、と区は浅草・伝法院通り商栄会店舗を1月に提訴。共産党は、長年の黙認は当時の区長が許した可能性が高い。話し合い解決を、と訴訟に反対。

「スジとおらぬ」 ことは反対

議会はチェック
機能果たせ

旧坂本小 解体問題



関東大震災後の復興小学校・旧坂本小学校は、活用方針も決まらぬまま老朽化を理由に解体へ。老朽化させた責任を棚上げし歴史的建物を壊すな、と反対。